

リアルな樹木を作ろう！

オランダ ドライフラワー

(スーパーツリー)

の使い方



無断転載、使用を禁止します。

© SAKATSU CO. 2018

オランダドライフラワーって何？



この製品のネーミングは実にシンプルでオランダで採れた灌木（？）をドライフラワー状にしたものなので「オランダドライフラワー」です。ただ完全なドライフラワーでは乾燥のし過ぎから模型用途だと枝が折れやすいため、グリセリン加工をほどこしてあります。

この製品を使ってリアルな樹木を作れますが、基本的にはそのまま使うというより多少の加工をして使うと無駄なく、変化にとんだ樹木を作ることができます。当小冊子に掲載した使い方は、一つの方法でこれ以外、幹をバルサ材で作ったり、より合わせた銅線で作った物に小枝として当製品を使うと大きな木も作れるので、アイデアで用途を広げてください。

左の写真は、現地オランダの畑（農場？）を訪問した時の写真です。見渡す限り「オランダフラワー」の広大な畑。手前のタイヤの跡は日本では見たこともないような大型農作業用トラクターのもので、タイヤからその大きさを想像してみてください。



写真はオランダ
ドライフラワー
(スーパーツリー
Super Trees)
少量パック

品番65300001214

パックには沢山のオランダドライフラワー（以下NDF）が詰まっていますが一本そのまま木に使える形のものはごくわずかです。

NDFは自然素材なのでその枝がまっすぐ伸びていることはまずありません。また、左下の写真では曲がってはいるものの、それを修正できれば何とか一本立ちの木として使えます。しかし、それ以外にも細かくちぎれた枝や、模型では幹に使用するような太い枝の切れ端も沢山混ざっています。

ここでは一見使えないような小枝も含め、効果的な利用法をご紹介します。



枝の曲がりを直す 使う工具：30W程度の半田ごて



枝の曲がりを修正するのは30W程度の半田ごてが最適です。枝のふくらんでいる側が上になるように平らな部分に押し付けます。ふくらんでいる部分を矯正するように、充分熱したこて先を2、3か所に当てるとしなやかに真っすぐになります。

こての熱によって多少焦げますが、あとで塗ってしまうので気にしません。万が一にも燃えてしまわないように充分気を付けて作業します。

一番下の写真は矯正が終了した枝です。



小枝を寄せ集めて灌木を作る 使うもの：瞬間接着剤



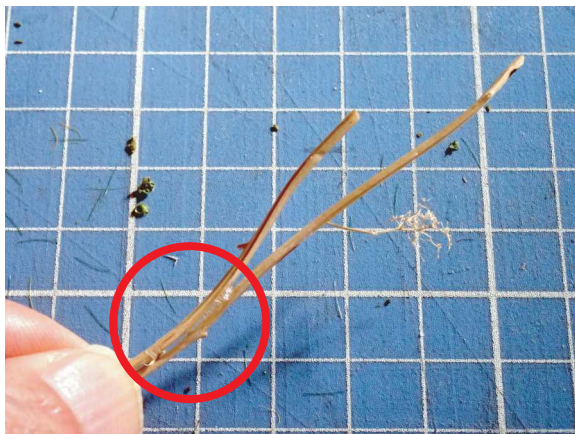
パックの中で一番多いのが左写真の小枝。

バルサ材などで作った幹にこれらを順次挿して木を作る方法が一つ。

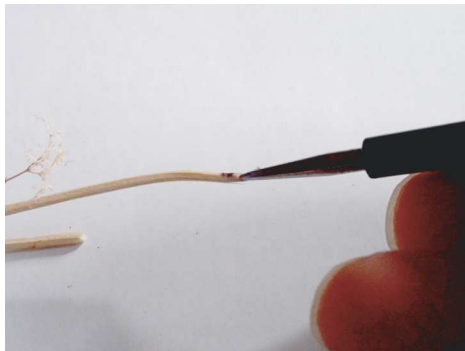
もう一つの方法が写真のように2～3本を背中合わせにして根元付近を瞬間接着剤でとめてしまいます。実物でもツツジなどの灌木ではこのように土から何本もの幹が出ているのがたくさん見られます。

根元から枝分かれの木を作る

使う工具：
0.8mm前後のドリル
千枚通し
瞬間接着剤



比較的太い枝だけがポロリとパックに入っていたらこれも変化のある樹木作りには最適です。上の小枝と同じように根元部分を瞬間接着剤でとめて下から枝分かれしている木を表現しましょう。



太い枝の先端に先のとがった道具（千枚通しなど）で軽く穴をあけ、下の写真のような小枝を挿し、瞬間接着剤でとめます。

太い枝の途中にも0.8mm前後のピンバイスで何か所か穴をあけます。



穴には小枝を挿し込み、これらも少量の瞬間接着剤でとめます。

完成！ です。
隣の3ページ一番下の写真と比べてください。パックのなかの端材と思われるものも上手に利用すれば無駄なく使えます。



右の写真はパックに入っていた端材を寄せ集めて作った木です。実物の樹木は非常に複雑な形をしているので、自由な発想で様々なバリエーションを楽しみましょう。



幹に色を塗る

使うもの：
ストーン調スプレー
スミ入れ塗料



幹の着色として、作例では表面がザラザラに仕上がるアサヒペンのストーン調スプレー マッドストーンを吹き付けました。

さらに、流し込み塗料の茶系、黒系で陰影をつけます。作例ではタミヤのスミ入れ塗料を使っています。



葉をつける

使うもの：パウダー類、スプレーのり77、茶こし



何本かまとめて作る場合は右写真のようにスタイロフォームなどの切れ端に挿して塗装をしたり、パウダーをかけると便利です。

葉の表現のパウダーは茶こしなどでかけると均一にかかります。

接着剤は3Mのスプレーのり 77を吹き付けます。

スプレーのりはできるだけ幹にかからないように、パウダーも同様にふりかけますが、どうしても幹にもパウダー付着します。

最終的には筆の入る限り茶系やグレー系の塗料で補修をします。

